


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 電子カルテシステム導入
2. 放射線科PACS
(フィルムレス)化
3. 看護の日の行事
4. 職場紹介
5. 視覚障害生活支援研修会

電子カルテシステム導入

数年来の念願であった電子カルテの運用が平成25年4月1日に開始されました。電子カルテの導入は4～5年前から検討され、平成22年9月に「鳥取医療センターIT推進準備室」が設置されました。当時、平成23年から24年度にかけての重心病棟の新築・再編や医療観察法病棟の新築・増床、回復期リハビリ病棟の開設という大きな事業が計画されていました。これらの事業が平成24年度中に完結できる目途がついたので、24年度末までの電子カルテ稼働を目標にして準備を進めることになりました。

当院は精神科一般・救急、医療観察法、重症心身障がい児（者）、回復期リハビリ、神経難病、結核などの専門医療を担っており、各部門で特殊性の高い独自の紙運用が存在していました。そのため電子カルテには各部門の運用をカバーでき、かつ業務の院内標準化と効率化を実現できるシステムが求められました。特に精神科では医療保護入院など種々の法律的な要件をみとす必要があります。この問題につきましては国立精神・神経医療研究センターから多くの知見をいただきました。院内勉強会やベンダーの説明会を繰り返しおこないつつ、当院が必要とする仕様を決定しました。平成24年8月末、富士通のパッケージ版でHOPE EGMAIN-GXに決まりました。

9月20日に院内キックオフミーティングをおこない、約6カ月間で本稼働にいたしました。この短期間で、コアメンバー、各種ワーキンググループ、各職員、ベンダースタッフが丸となって運用設計、構築、テスト検証という多くの作業工程をこなしました。これらの作業の過程で各部署間の結びつきが強化されたという副産物があったように思えます。

パッケージ仕様のため、細かい部分では業務をソフトにあわせなければなりません。今のところ特に大きな支障もなく運用できています。今後使い込まれてくると種々の改良希望が生じてくると思われます。年1回の定期レベルアップが予定されていますので、よりよいシステムに発展させていきたいと思っています。



統括診療部長
井上 一彦



電子カルテシステム 端末



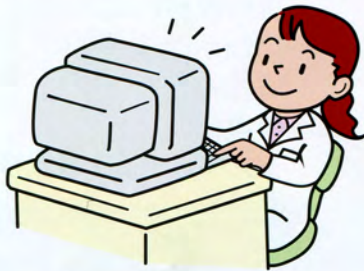
電子カルテシステム サーバー

● 放射線科PACS(フィルムレス)化 ●

診療放射線技師長 富田正二

4月の電子カルテ稼働に伴い放射線科はPACS (Picture Archiving and Communication System) を導入しフィルムレス化をおこないました。

近年放射線装置の高性能化が進み診断画像のスライス枚数が1検査で500~1000枚を超えるようになりフィルム枚数も増えてきました。



そのことによって色々な弊害が起きるようになってきました。診断フィルム作成に時間が

かかり患者さまの待ち時間が増えて、さらに重くなったフィルムを持ち運ばなくてはならない。診察室ではフィルムを順番にシャーカステンに掲げる手間があり、さらに過去分がある場合は探す・運ぶ・選ぶという作業が加わります。診察終了後には小袋にフィルムを整理したのち大袋にしまうという作業。管理面では長期にわたる保管が必要なため場所の確保も難しくなっていました。

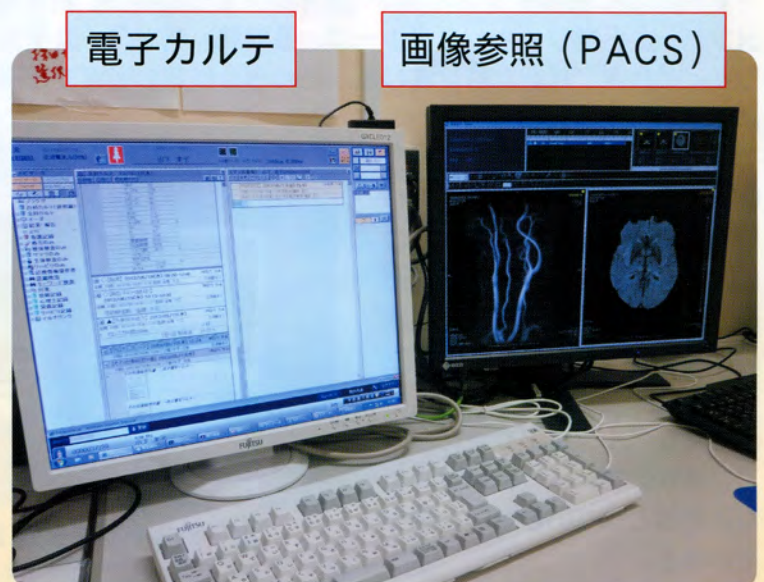
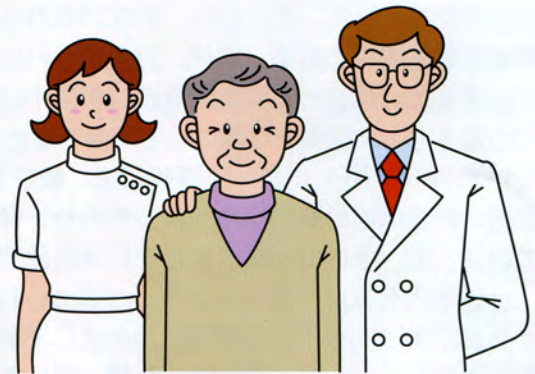
このPACSは電子カルテ・オーダリングシステム・放射線管理システム(RIS)と連動してデータの入力・やりとりをおこない、放射線科で発生する全ての画像を管理・配信することによってそれらの問題を解決することができます。オーダリングシステムから送られた検査依頼情報はRISを介して各装置(モダリティ)へ送られ画像情報とひもづけて配信されるので人の手を介さないシステムとなりヒューマンエラーを無くし医療事故防止にも役立ちます。ネットワーク化により1つの画像を同時に異なる場所から参照することも可能ですし、過去画像との比較が容易となりました。さらにはCTやMRIの画像はMPR(Multi Planer Reconstruction)機能の利用により水平断・矢状断・冠状断・任意断とあらゆる方向からの読影ができ、より早く・よりの確な診

療が可能となります。今回読影レポートシステムも同時に導入され放射線科Drの読影結果が電子カルテから閲覧でき主治医からの説明を即座にうけられることにより診察・インフォームドコンセントの観点からも役立っています。カンファレンスにおいても準備等の手間はなくなり大型モニターを利用して行うことができています。

患者さまへお掛けしていたフィルム搬送をはじめとするとご負担も解消されます。

今回同時に超音波画像と内視鏡画像も同システムに組み入れ参照可能となっています。

動画(超音波・嚥下撮影等)の取り込みは出来ておらず、課題として残っておりますが、現在はPACSの動作の安定性・データの安全性に留意し、さらに良い方向へ進めるようさらなる努力をしていきたいと思っております。



● 平成25年度永年勤続表彰について ●

庶務係長 山本 淳 詞

去る、平成25年4月15日に当院大会議室において、平成25年度の永年勤続表彰式が挙行されました。式では、長年にわたり国立病院機構に勤務し、医療の発展と向上に寄与してきたことの功績をたたえられ、下田院長から表彰状と記念品が授与されました。

なお、今回表彰されたのは次の方々です。

勤続30年 看護部長 近藤 紀子
看護師長 夏田 真理
看護師 森井 千鶴栄
洗濯長 臼田 秀幸

勤続20年 看護師長 戸野 佳子
看護助手 森原 泉



● 永年勤続表彰を受賞して ●

看護部長 近藤 紀子

平成25年度永年勤続表彰の授与式が、4月15日(月)に当院大会議室でとり行われました。20年勤続表彰者2名、30年勤続表彰者4名が、栄誉ある表賞状と金杯をいただき、身に余る光栄と感激しています。永年勤続者を代表し皆さまにお礼申し上げます。

光陰矢のごとしと申しますが、文字通り矢のように過ぎた時間が30年経っていたと思うと、十分に自分の役割が担えたかが不安になり申し訳ない気持ちもあります。国立病院が経営改善命令をうけた時に当院に勤務していましたが、「病院は、私たちは、変らなくちゃ！」と衝撃をうけた記憶があります。その後多くの取り組みや改善がすすみ激動の時代を乗り越え、独立行政法人国立病院機構鳥取医療

センターとして、今日を迎えられたことに深く喜びを感じています。振り返れば、数々のことが走馬燈のように思い起こされ、この間に良き上司良き同僚や後輩に恵まれ、共に今日まで働けたことに感謝の気持ちで一杯です。

私自身看護師として、家庭と仕事を両立させたいと願いながら努めてきましたが、残すところ最後の一年となりました。多くの方々との出会いを宝物として、今後も与えられた役割を、私なりに精一杯の気持ちを込めて日々勤務していきますので、どうぞ引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



看護の日の行事

～看護フェスタinサンマート湖山店by鳥取医療センター～

看護師長 戸野佳子

5月11日土曜日、『看護の心をみんなの心に届けよう』をテーマに、看護フェスタをサンマート湖山店の店舗前をお借りして開催しました。心配していた天気は小雨。それも1時間程度で上がりました。この日はお客さんが多く、私たちのイベントにも多く立ち寄っていただきました。



今回のイベントは例年同様に、身長・体重・体脂肪・血圧測定、ストレスチェック、骨年齢・血管年

齢・呼吸年齢・脳年齢測定、当院医師による健康相談のコーナーも設けました。相談コーナーでは測定値の説明を受けたり、日頃の心配ごとなどを相談されたりしておられました。測定コーナーでは、骨年齢測定やストレスチェックは人気があり、来場者からは、『去年、来れなかったから、今年は来てうれしかった。』『来年もぜひやってほしい。』などの声が聞かれました。

バルーンアートは好評で、特にとんぼやブードル作りは人気がありました。また、今年初めて子供さんを対象にした“看護師になってみよう”と題し看護師のユニフォームを着て写真を撮りプレゼントするコーナーを設けました。お母さんの希望で携帯の



待ち受けにされたりして好評でした。企画した私たちもたくさんの方に訪れていただけ、喜んでもらったことをうれしく思いました。

院内では、看護の日にあわせてメッセージカードを贈り、喜んでいただけました。また、“お父さんお母さんは看護師さん”と題してお子さんに似顔絵を描いていただき、院内に掲示しました。私たち看護師は家族の協力あってこそ働くことができます。その家族から『私のお父さん・お母さん大好き』『がんばって』などエールをもらい、逆に元気をもらいました。

今回、看護フェスタを開催するに当たり、院内外の多くの方にご協力をいただき感謝いたします。『看護の心』が少しでも皆様の心に届けられたら幸いです。

かわいいね～
上手に描いてるね！



院内に掲示しました。

“お父さんお母さんは看護師さん”



血圧測定



健康相談・看護師就職相談

かわいい
看護師さん



お子さんの看護師コスプレ



看護フェスタinサンマート湖山店
by鳥取医療センター



呼吸年齢測定



トリピーと一緒に“はいポーズ”
お母さんの携帯の待ち受けに！



ストレスチェック・血管年齢測定
“私の血管は元気だわ～”



バルーンアート
“ワンちゃんつくって～”
子供さんに大人気！！

医師・看護師募集中

医師・看護の仕事への再就職を考えておられる方、転職を考えている方お気軽にご相談ください。

※看護学生の方は奨学金制度があります。

問い合わせ先：鳥取市三津876番地

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター 0857-59-1111



● 職場紹介 ～外来部門～ ●

看護師長 太田 くによ

当院の外来部門は、精神科・内科（呼吸器・循環器）・神経内科・小児科・外科・整形外科・放射線科・歯科）の診療科と、脳ドック・特定健診・専門外来（睡眠外来・嚥下障害・失語症・高次脳障害・パーキンソン病・発達外来）を行っています。

また、内視鏡室が外来に併設されており、気管支ファイバー、胃カメラ、心エコー、などの検査、PEG造設も行っています。

当院は、本年4月から電子カルテを導入しており、医師・看護師とも悪戦苦闘はしましたが、大きな混乱もなくスムーズにスタートすることができ安堵しているところです。

外来スタッフは看護師長、看護師13名、看護助手1名、事務職2名、計17名で外来診察介助、小児科通園事業、精神科ディケア、精神科訪問看護と多様な業務に携わっています。精神科訪問看護は、外来通院をされている方が、安心して治療を継続しながら快適な生活を送ることができるよう、看護師とPSW（精神保健福祉士）と2名体制で自宅に伺って日常生活への支援を行います。

当院を受診される患者様の多くは、重度の身体的症状を持つ方、精神的な介助を要する方々であり、私たちは患者様の安全、安楽、安心を最優先に行動できる看護をしていきたいと思えます。



● 職場紹介 ～管理課～ ●

管理課長 尾田 一郎

事務室には、企画課と管理課がありますが、管理課の紹介をいたします。

まず事務職員は、課長を含め8名おります。

管理課では、職員の庶務全般に関することとして、小林庶務班長が、勤務時間管理、出張・施設外活動等、宿舎、行事予定（宿日直含む）、施設管理等々を、また、職員の人事・給与に関することとして、山本庶務係長が採用・退職・休業等に関する手続き、河

田女史が給与・諸手当等の支給に関すること、石井さんには官用自動車の運転・整備の傍ら出勤簿や休暇簿の管理や給与控除関係を。

そして、職員の福利厚生、健康管理、共済・年金等に関することなどを藤田女史と河村女史が担当し、到着文書の仕分けや発送を山本女史が担当するなど多岐にわたり事務をこなしておりますが、外からの電話の取次ぎの多さに閉口することもしばしばあります。

また、現場には、白衣などの洗濯をしている臼田さん。

そして、副玄関入口すぐのボイラー室に森原さんと能勢さんがおります。

見かけられましたら、お声をかけてやってください。

更に張り切って作業をしてくれると思います。

給与（218）や共済（209）に関することなど、また産休や育児休業に関することなど気軽に問い合わせしていただければ幸いです。



● 視覚障害生活支援研修会を受講して ●

リハビリテーション科作業療法士 高岡 崇

この度、平成25年5月29日～31日の3日間に渡り、国立障害者リハビリテーションセンター学院にて開催された『視覚障害生活支援研修会』に参加させて頂きました。研修会では、『糖尿病とはどのような病気なのか?』といった疾患に対する全般的な基礎知識や運動療法、食事療法など、視覚障害のみならず糖尿病に対する支援の方法について、専門的な知識を備えた多職種の講師により学ぶことができました。その中でも私が深く印象に残ったものは、運動療法の講義の中で『足の切断誘因の3割は靴づれによるもの』ということを知り大変驚きました。効果的な運

動療法においても訓練前後における怪我の有無や適切な運動方法を考え、援助していく関わりが重要だということを知りました。

現在私は精神疾患を有する方に関わっていますが、糖尿病を罹患している方も多く見られています。今回の研修会で得た糖尿病に対する疾患の知識や効果的な運動療法を日々の業務に生かしていくとともに、精神科医療の質の向上に繋げていきたいと考えています。



● 新採用者研修を受講して ●

医事課 椿原 初乃 祐

私は今春より鳥取医療センターの医事の入院係に配属され、約2ヵ月間勤務してきました。医事の中でも自分の仕事に四苦八苦している現状、また鳥取医療センターには事務職の同期が存在しないなどのこともあり同じ事務職でも周囲を見渡してみれば解らないことだらけという状況でした。

この度、私は平成25年度新採用事務職員研修に参加しました。そこでは各職場や国立病院機構全体に関する説明、社会人としてのマナーや接遇の講義の数々を受け、また、今まで顔を合せた事もなかった同期達との出会いがあり、それを通じて他の医療セ

ンターや職場の様子などについてたくさんを知ることができました。

今回の研修は自分自身にとって今まで知らなかったことを知るとともに、これからのことについて考える良い機会であったように感じられます。これからも常に学ぶ姿勢を忘れず、一日一日を無駄にせずしっかり自分のものにしていきたいと思えます。



● 新職員ご挨拶 ●

①氏名 ②職場 ③出身地 ④趣味・スポーツ等 ⑤ひと言

① 河本 恵美子 ② 事務部管理課
③ 鳥取県鳥取市 ④ キャンプ
⑤ 分からないことばかりで、毎日あたふたしておりますが、早く仕事を覚えて皆さんのお役にたてるようがんばっていきますので、よろしくをお願いします。



① 荒木 紀帆 ② 臨床研究部
③ 大阪府 ④ バスケットボール
⑤ 大学、大学院ではタンパク質工学について勉強していました。至らない事も多いと思いますが、よろしくをお願いします。



外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成25年7月1日現在

			月	火	水	木	金
内科			松本 (循環器)		松本 (循環器)	松本 (循環器)	松本 (循環器)
			山本 (呼吸器)	山本 (呼吸器)	山本 (呼吸器)		
神経内科	1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充	
	2	下田	下田	金藤 (嚥下外来)	土居充	土井あかね	
	3	小西	土井あかね	齋藤	小西 (井上)	房安	
	4	房安			三島		
小児科			中野	小松	赤星	中野	赤星
精神科	初診	診察室6	助川	休診	休診	坂本	休診
	完全予約制ですので事前の予約が必要です。(急患の方はこの限りではありません)						
	再診	診察室1		助川	土井清	高田	柏木
		診察室2		坂本		助川	土井清
		診察室3		岩田	幡		坂本
		診察室5		池成		林	
診察室8							
外科			古澤	古澤	古澤	古澤	古澤
整形外科 (隔週8:30~13:00)				市立病院 医師			
専門外来	睡眠外来 (完全予約制)	精神科5	坂本			高田	
	神経内科 (予約制)		失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚥下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害
	小児科 (予約制)		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野/関		
リハビリ入院相談 (13:00~15:00)			齋藤	齋藤	土井あかね	齋藤	齋藤
地域医療連携室			齋藤	齋藤	土井あかね	齋藤	齋藤
					予防接種 15:00~16:00	第3水曜日の予防接種は予約なし	

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分 (睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://tottori-iryo.jp/>
- ◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713